保育者と保育者養成校との協働保育実践が及ぼす 学生への教育的効果

Educational Effects of Collaborative Childcare Practice between Nursery Teachers and Education Course

村田　健治　村上　優
MURATA Kenji　MURAKAMI Yu

キーワード：保育実践力，領域「表現」，主体的な学び，劇遊び，地域連携
Key Words：Childcare Practical Capabilities，Area“Expression”，Independent Learning，Role Play，Collaboration with Local Communities

1. はじめに

奈良佐保短期大学（以下，本学とする）地域こども学科では，「ゼミナールI」及び「ゼミナールII」の科目を独自科目として設定している．この科目は2年間の学修を通じて，就学前期から学童期までを見通した，子どもたちの遊びの内容や活動を実践的に学ぶ科目として位置づけられている．学生は，幼児体育，身体表現，音楽表現，子育て支援，保育内容，造形表現の6つのフィールドの中から1つを選択し，1回生前期から2回生後期まで，全60回の講義を通して，興味のあることや得意なことを伸ばし，保育・教育実践力を培うべく活動が展開されている．

筆者のうち村田は保育内容フィールド，村上は音楽表現フィールドを担当している．保育内容フィールドでは保育者としての現場実践力の向上を目標として，保育所や幼稚園等で実践される内容を中心に取り入れて展開している．音楽表現フィールドでは保育・教育の現場を想定した音楽表現活動の実践力の向上を目標として，様々な楽器の演奏やアンサンブル演奏を中心に展開している．

本稿では，保育者養成校の学生が実際の保育現場に赴き，子どもたちの前で表現発表を実践することでどのような学びが得られたのか，また，保育者が実践を観察して学生にどのような学びが得られたと感じるのかをアンケート調査を行い，それを分析することにより，今回の保育実践の教育的効果について検討するものである．

2. 保育内容フィールドと音楽表現フィールドの実践内容

2-1保育内容フィールドの実践内容

2023年度（1回生）の授業実践前期には，保育者として基礎的に求められる環境構成の実践として，毎月の保育室の壁面制作を行ってきた．後期には，子どもたちの表現発表を実践的に体験するため，地域の子育て家庭支援のために本学が企画した行事において，表現発表（劇）を発表することとした．筆者のうち村田は保育現場で12年間，担任として子どもたちへの指導をしてきた経験をもとに，「ゼミナールⅠ」の授業において劇遊びの企画や構成について指導を行った．実際の子どもたちや保護者に主体的に関わる経験をすることで，表現（劇）を発表することだけにとどまらず，発表の内容そのものが，子どもたちにとって理解しやすいか，言葉や態度などが伝わりやすいものになっていたかなど，試行錯誤しながら実践を行ってきた．

2024年度（2回生）の授業では，学修成果及び到達目標として表1に示した3点を定めて実践的な学修を進めてきた．具体的には，保育室の誕生表の製作，日めくりカレンダーの製作，乳児向け玩具の製作などを行う中で，保育の実際の環境構成のあり方や教材について学生自身が実践的・主体的な学修をしながら理解を深めてきた．

表1　ゼミナールⅡ（保育内容）の学修成果及び到達目標

①5領域が総合的に関連し，子どもが成長・発達していくことを遊びの理解を通して認識することができる．
②遊びを指導する保育者の役割について，保育実践事例を通して理解・考察を深め，保育者としての実践力を獲得することができる．
③作品の内容・構成を理解して表現活動に活かすことができる．

2-2音楽表現フィールドの実践内容

2023年度（1回生）前期には，楽器の演奏技術を身に付けること，また，音楽を通して互いに協力し合い，親睦を深めることを目的として，各学生が希望する楽器を使用して，アンサンブル演奏を行った．後期には，担当する楽器の種類を増やし，更なる演奏技術の向上を図るとともに，地域の子育て家庭支援のために本学が企画した行事に向けて，親子が楽しめる音楽を提供するためにできることを学生同士がアイディアを出しながら検討し，準備を行ってきた．その行事では，子育て支援フィールドの履修学生と共同で音楽劇を披露した他，子どもたちと一緒にダンスをしたり歌を歌ったりした．また，タンブリン・カスタネット・すず・ウッドブロックなど，小さな打楽器を子どもたちに実際に触れてもらい，音やリズムを楽しめるようにした．

2024年度（2回生）の授業では，学修成果及び到達目標として表2に示した3点を定めて学修を進めてきた．具体的には，保育・教育現場でも使用する機会がある木琴を用いて，木琴を中心としたアンサンブル演奏を行い，マレットや演奏方法を変えて，一つの木琴でも様々な音色が出せるようにしたり，学生のアイディアにより他の種類の楽器を増やして音楽表現の幅を広げたりする中で理解を深めてきた．

表2　ゼミナールⅡ（音楽表現）の学修成果及び到達目標

①保育者・教育者として必要なピアノや他の楽器の演奏技術を身に付け，積極的に演奏することができる．
②自分自身が自由な発想で音楽や演奏を楽しみ，保育・教育に生かすことができる．
③保育・教育における器楽演奏以外の音楽表現について，様々なアイディアを出すことができる．

2-3表現発表までの学び

今回の実践にあたって，保育内容及び音楽表現フィールドを選択している2回生は本学のカリキュラムにおける，「幼稚園教育実習I・II」及び「保育実習I」の実習を修了している．これらの実習では，個々に指導案を作成し，部分保育や設定保育等の実践を経験する中で，子ども理解や教材研究について理解を深めている．

3. 表現発表（劇遊び）の概要

3-1表現発表（劇遊び）の発表内容・対象について

本保育実践は，社会福祉法人晋栄福祉会幼保連携型認定こども園いちぶちどり保育園の協力のもとで行った．2024年5月20日に同保育園にて園長と筆者らで協議を行い，実践の詳細について検討を行った．その結果，2歳児クラスではリトミック及び楽器体験を通した表現発表を行い，3，4，5歳児クラスでは，劇の表現の演出の中に，さまざまな遊びや音楽表現を取り入れた内容で実践をすることが決まった．また，協議において，園長をはじめ園側の意向として今回の保育実践におけるニーズを伺った．発表対象のうち2歳児は，日頃の保育の中では楽器遊びを経験する機会が少ないことから，外部公演の形式を通じて子どもたちが楽しみながら楽器に触れる経験をさせたいという要望があった．また，幼児クラスである3，4，5歳児については，毎年2月に控えている生活発表会の中で，5歳児が

昔話をモチーフにした表現発表を行っており，3，4歳児にもその表現を見せる機会があると伺った．しかし，これまでの生活発表会では，セリフを中心にした劇になる傾向があったため，歌を歌いながらセリフを入れたり，リトミックを取り入れたりするなど，会話劇だけではなく様々な表現を取り入れることで，5歳児自身が楽しみながら「感じたことや考えたことを自分なりに表現する」[注1)] ことができるような表現発表にしたいという思いがあった．

そこで，子どもたちが今回の発表（劇）を鑑賞することで，5歳児は，生活発表会での表現のあり方に参考にすることができ，また年下の3，4歳児にも披露することで，年長児への憧れや期待感につなげていきたいという保育者の願いをくんだ内容となるようにした．副次的な効果としては，幼児クラスを担当する保育者にとって，指導上の参考にもなりうるのではないかという職員の資質向上にも寄与するという取り組みになることが考えられた．

保育内容フィールド及び音楽表現フィールドを選択している学生は，これまでの学修内容を踏まえ，訪問する保育園の実態に合わせた保育実践を展開することを目的とし，各フィールドの特性を活かし，互いに協働しながら企画・準備・実践を行い，保育現場での実践力の向上を目指すこととして取り組んだ．本実践の参加学生は，保育内容フィールドより9名，音楽表現フィールドより5名，「ゼミナールII」は受講していないが，準備段階からボランティアとして参加した学生2名の計16名であった．

3-2 表現発表の発表日及び準備・作成物についての教材研究

表現発表の演目については，5月23日の両フィールド合同授業おいて，前述の協議にて示された保育園の意向について学生に説明した上で，園児の実態と保育者の願いを踏まえた，表3に示した視点をもとに討議し，両フィールド合同で実践発表の内容について教材研究を行った．

表3　発表演目の選定条件

(2歳児クラス) ・音楽表現を取り入れた発表内容であること ・楽器遊びを含めた内容であること (3，4，5歳児クラス) ・子どもたちに馴染みのある物語やストーリーであること ・セリフのみに偏らず，動きや音楽のある脚本にすること ・5歳児が実際に自分たちで実現できるような衣装や用具を用いること

2歳児クラスの発表内容の選定については，子どもたちが音を聞くだけではなく，能動的に体を動かしたり，言葉を発したり，表現したりできることを重視した．まず，ダンスを一緒に踊ることで子どもたちが学生や教員に慣れて安心できる雰囲気を作った後，音楽を聞いて音に合わせた動きを能動的に表現できるよう，子どもたちがよく知っていると思われる動物を用いたリトミックを取り入れることとした．また，園児が楽器に触れる機会を作りたい，という保育園と学生の要望から，小物打楽器を鳴らして音やリズムを楽しめる表現発表を取り入れることとした．

3，4，5歳児クラスの発表内容の選定については，最も低年齢の3歳児であっても，物語の流れに見通しがもちやすく，話のイメージを捉えやすい昔話の物語を土台にすることを前提に，両フィールドで絵本や紙芝居を調べ，保育実践書を参考にしながら教材研究を行った．その結果，物語の脚本候補として「ジャックと豆の木」「浦島太郎」「三匹のこぶた」が挙げられ，最終的には物語のシーンの中で動作や効果音等の音楽を取り入れやすいことに加え，登場人物の種類数の調整が可能であることから，「浦島太郎」を脚本として決定した．

表4は今回の表現発表の実践に至るスケジュールと，具体的な練習内容について示したものである．

表4　2024年度いちぶちどり保育園 表現発表実践発表計画

保育内容フィールド			音楽表現フィールド		
月日	曜日	内容	月日	曜日	内容
5月20日	月	いちぶちどり保育園(園長)と教員(村上・村田)による実践内容協議			
5月23日	木	合同ゼミ(保育における劇についての教材研究、実践発表の脚本検討)			
5月30日	木	合同ゼミ(実践脚本「浦島太郎」決定・各フィールドの役割分担について確認)			
6月27日	木	3，4，5歳児クラス対象の表現についての劇台本作成と演出内容について討議	6月27日	木	2歳児クラス対象のリトミックと楽器遊びの内容について討議 3，4，5歳児クラスの合奏・合唱内容について討議
7月4日	木	「浦島太郎」の配役決定 小道具、大道具の作成内容決定	7月4日	木	「浦島太郎」劇中音楽について教材研究
7月11日	木	大道具(舞台背景)制作 小道具(出演者衣装)制作	7月11日	木	劇中の合奏曲、合唱曲について練習
7月18日	木	大道具(舞台背景)制作 小道具(出演者衣装)制作	7月18日	木	2歳児クラスのリトミック、楽器遊びについて練習
7月25日	木	合同ゼミ(ゼミごとの進捗確認、劇の稽古：セリフ読み合わせ)			
8月2日	金	合同ゼミ(劇の稽古：演出を入れた舞台練習)			
8月19日	月	合同ゼミ(劇の稽古：合奏、合唱を入れた通し練習)			
8月22日	木	合同ゼミ(2歳児クラス用実践リハーサル、劇の稽古：通し練習)			
8月29日	木	合同ゼミ(最終リハーサル)			
8月30日	金	いちぶちどり保育園実践発表当日			

4. 表現発表実践の具体的内容

4-1当日のスケジュール

表現発表当日のスケジュールは，表5の通りである．2歳児クラスは遊戯室を使用して20分間の発表とした．その後，3，4，5歳児の保育室境界の可動式パーテーションを取り払った3部屋をつなげた保育室で音楽劇「浦島太郎」の準備をし，40分間実践した．

表5　当日スケジュール

時刻	時間	内容
9：50 ～10：10	20分間	2歳児向け表現発表 ・リズム遊び「パンパン！」 ・動物の表現遊び ・楽器体験
10：10 ～10：20	10分間	場所移動，準備
10：20 ～11：00	40分間	3，4，5歳児向け表現発表 ・音楽劇「浦島太郎」 ・ダンス

4-2 2歳児クラス対象の表現発表

当初は2歳児クラス18名のみを対象として計画をしていたが，当日，0歳児クラス（6名），1歳児クラス（15名）の園児も保育士とともに急遽参加した．

（1）リズム遊び「パンパン！」

最初に行うダンスでは，子どもたちが認識せず自然に体を動かすことを目的として，テンポが速めの曲「パンパン！」（作詞：福田りゅうぞう，作曲：鈴木翼）を選曲した．演奏は保育園に設置されたアップライトピアノでのピアノソロで，曲に合わせて手拍子をし，歌詞に出てくる，ねじりパン，フランスパン・メロンパンの3種類のパンに合わせた動きを取り入れた．パンの形と動きが連想しやすいように，スケッチブックに3種類のパンの絵を描き，子どもたちが視覚的にも認識できるようにした．

（2）動物の表現遊び

音楽の雰囲気に合わせた動きを体で表現するリトミックでは，うさぎ，ぞう，ラッコ，鳥，馬の5種類の動物の特徴を表現した音楽をピアノで演奏し，その演奏に合わせて園児が体を動かせるようにした．園児が視覚的にも認識できるように，スケッチブックにそれぞれの動物の絵を描いておいた．それを園児に見せた後，どのような動きをするのかを園児に問いかけ，園児が表現した動きを学生が模倣した．園児の動きが何種類かあった際は，できるだけ多く取り上げ，音楽に合わせて体を動かす時には，園児が好きな動きができるように声をかけたうえで，複数の学生がそれぞれ違った動きをした．例えば，うさぎの場合であれば，学生が「うさぎさんはどんな動きをするかな？」と問いかけ，ある園児は両手を頭の上に上げ，前後に揺らして耳を表現して

おり，またある園児はジャンプをし，思い思いの表現をしていた．学生たちはそれぞれを模倣したうえで，音楽に合わせながら両手で耳を表現する学生，ジャンプをする学生，両手で耳を表現しながらジャンプする学生など何種類かの動きを園児たちの前で表現した．

（3）楽器体験（タンブリン，すず，リトミカ注2)）

本学から持参したタンブリン，すずと，保育園にあるタンブリン，すず，リトミカを園児一人一人に配付し，園児が楽器を持って実際に音を鳴らせるようにした．園児は持っている楽器を学生と一緒に鳴らして体験した後，ピアノ演奏に合わせて四分音符のリズムで楽器を鳴らしながら，全員で合奏をした．

4-3幼児（3，4，5歳児）クラス対象の表現発表

音楽劇「浦島太郎」の実践にあたっては，保育内容フィールドの学生を中心に，保育現場での実務経験のある教員の指導のもと，脚本，衣装，大道具（舞台背景），小道具をそれぞれ作成した．

脚本については，保育現場で行う劇あそびの形式に合わせて，一人の登場人物を複数の学生が演じることができるよう，「浦島太郎」のストーリーを大きく三つの場面に分けて配役した．また，それぞれの場面にはセリフを中心とした会話のやり取りも含めながら，歌唱や手遊び，楽器の演奏，ダンス場面などを盛り込んだ．

（1）衣装（図1）

保育の表現活動でよく使われる教材のカラーポリ袋を利用し，登場人物の衣装を作成した．とくに，浦島太郎役の衣装については，子どもたちにイメージが広がりやすいよう，腰蓑をつけた．腰蓑は，保育現場でよく使用するスズランテープを割いて，平ゴムにくくりつけ，着脱が容易な形式にして作成した．亀の衣装については，甲羅部分をカラーポリ袋，段ボール，新聞紙を使用してバックパック型に作成し，背負う形状のものとして作成した．

図1　登場人物衣装（左からイカ，魚，エビ，侍女，乙姫，浦島太郎，亀，亀甲羅）注3)

（2）大道具（舞台背景）（図2）

学生が演じている場面を子どもたちがイメージしやすいよう，舞台背景を作成した．作成は模造紙を四枚一組サイズに貼り付け，ポスターカラーで色付けした．また，物語のシナリオに合わせて背景を三場面に分け，①浦島太郎と亀の出会いの砂浜②竜宮城③元の世界（現代）という形式にした．そして，舞台の進行とともに，背景が即時転換できるよう，模造紙にカードリングを取り付け，捲り上げられるようにした．

図2　大道具（舞台背景）注3)

（3）小道具（図3，図4）

劇中の動きに合わせて，小道具を作成した．浦島太郎に関する小道具については，釣り竿，釣り餌，魚かご，玉手箱を作成した．釣りをする動作や，モノを出し入れする動作など，鑑賞している子どもたちにわかりやすくイメージが広がるよう，一つ一つのサイズを実寸のものよりも大きめに作成している．また，劇中に登場する様々な海の生き物について，何を演じているのかがわかりやすいよう，画用紙でお面を作成した．

図3　釣具等注3)

図4　登場人物用お面注3)

（4）実践の様子

浦島太郎の表現発表が始まると，子どもたちからは「知ってる！」との声があちこちからあがり，興味をもって観覧している様子が伺えた．また，学生らが登場人物に合わせた衣装を着用し，セリフが聞き取りやすいようにゆったりとした発声で進めたことで，耳を傾けながら集中して聞いている様子であった．

小道具の釣り竿を用いた表現では，劇の舞台全体を使って釣り上げる表現を取り入れ，子どもたちも何が釣り上がるのか歓声を上げながら楽しんでいる姿があった．劇の途中には，浦島太郎が竜宮城でもてなしを受けるシーンを遊びの表現で示すべく，手遊び「さかながはねて」を会場参加型の形式にして実践した．この手遊びについては，園との事前協議の中で，在園児が普段から親しんでいる手遊びの候補を園側から挙げていただいたものであった．劇中の手遊びとして取り入れることで，学生らは振り付けを見せながらやりとりをして手遊びを進め，子どもたちは学生の言葉に口々に反応しながら手遊びに参加する姿が見られ，学生も子どもたちからの言葉に即座に反応を返しながら会場全体が一緒になって表現を楽しむことができた．

5. 学生の自己評価

学生自身の評価と保育者からの評価を対比させるために，学生と保育者それぞれにアンケート調査を行った．この項目では学生自身の自己評価のアンケート内容と結果を示した．

5-1学生向けアンケート調査対象及び調査期間

保育内容ゼミナールの学生9名と音楽表現ゼミナールの学生5名及びボランティアで参加した学生2名の計16名に対してアンケート用紙による筆記での調査及び回収を行った．調査期間は，発表前日となる2024年8月29日と，発表後の8月30日～9月13日の2回に分けて行った．

調査に際して質問紙への回答は任意であり，回答を拒否することや回答後に撤回することも可能であることを説明するとともに，回答内容によって回答者が不利益を被ることはないこと，個人情報は収集しないこと，また，研究成果を本稿で発表することをアンケート用紙に記載した上，口頭で説明し，同意を得て実施した．

発表前日，発表後の両アンケートともに，対象者16名のうち，15名が回答し（回収率93.8%），有効回答率は100%（15名）であった．

5-2発表前日の学生向けアンケート

保育園での公演前日に，学生に対して行ったアンケート調査の項目と回答について述べる．アンケートは「今回の表現発表について，自身の達成したい目標を記入してください.」とする質問への自由記述の一項目とし，回答結果を表6に示した．表6～表16の自由記述に記載のあった回答は全て記載し，引用した記述や本文に関連する記述については下線で示した．

「声は大きく」したり，「劇の進行を止めないよう」にしたり，と具体的な行動目標を回答する学生や，「臨機応変に動ける」ようにしたり，「子どもたちに積極的に関わ」ったり，と「子どものことを考えて発表」することを回答する学生もいた．また，「表現することの楽しさを伝え」たり，「これからの生活の中で何かのプラスの影響になるよう」に心がけたり，「真似したいと思ってもらえる」ようにしたり，と「保育者として行動でき

表6　Q.今回の表現発表について，自身の達成したい目標を記入してください.

・何か言うときに声は大きくする。
・自分のミスで劇の進行を止めないようにする。
・進行が詰まっても最後までやり通す。
・子どもたちの前で何をしたらいいかわからずかたまってしまわないようにしたい。
・ハプニングなどに対して臨機応変に動けるようにする。
・臨機応変に広い視野で行動する。
・落ち着いて自信をもってする。
・目標は、表現遊びや劇を楽しみながら自分の役割をしっかり果たすことです。
・子どもたちに積極的に関わる。
・子どもたちの前では笑顔で進行や対応をする。
・笑顔で乗り切ります！
・自ら前に立って子どもの視線を受け止めながら緊張せずに表現する。
・人数を気にせず行う。
・子どもたちの気持ちをくみとり、考えて話しかけたり、反応をし、少しでも子どものことを考えて発表できるようにしたいと思います。
・保育者として行動できるように意識したいと思います。
・子どもたちに音楽の面白さ、表現することの楽しさを伝えたい。
・短い時間の中でも「楽しかった」と思ってもらえるような雰囲気づくりをしていきたいと思う。
・子どもたちが楽しんでくれる、またこれからの生活の中で何かのプラスの影響になるようなすばらしいものにしたいと思います。
・アレンジしている物語なので、よりわかりやすく子どもたちが楽しめる発表にしたい。
・子どもたちが発表するときは真似したいと思ってもらえるようなものにしたい。
・子どもたちと一緒に楽しむ。
・とにかく楽しくやりたい。
・保育者が楽しい気持ちでやらないと子どもに伝わらないので、自分自身全力で楽しむことを一番の目標としたい。そのために、身振り手振りは大きく、常に笑顔でやりたいと思う。

る」ことを目標に挙げる学生もいた．そのために，「子どもたちと一緒に」「自分自身全力で楽しむ」ことを目標とする学生もいた．

回答からは，それぞれの学生が個々の思いをもとに，近い将来の自身の保育者像を想像しながら取り組んできた様子が読み取れる．

5-3発表後の学生向けアンケート

保育園での公演後に，学生に対して自己評価のためのアンケート調査を行った．質問項目としては，公演の事前準備や練習における取り組みの意識について（Q1～Q2），公演当日を振り返り自己評価としてどのように取り組むことができたか（Q3～Q6），及び公演発表から得られた学びや内面の変化（Q7～Q8），保育現場とのコラボレーション活動として取り組んでみたい内容（Q9）を尋ねた．以下に各質問項目と結果を示す．

（1）「Q1：表現発表の事前準備・練習について，特に積極的に取り組んだことは何ですか．特に当てはまるものにチェックを入れてください．(複数回答可)」について

図5は質問の選択肢と回答結果を示したものである．最も回答が多かった項目としては，③学生同士のコミュニケーション・共通理解をすることであり，9名（60.0%）

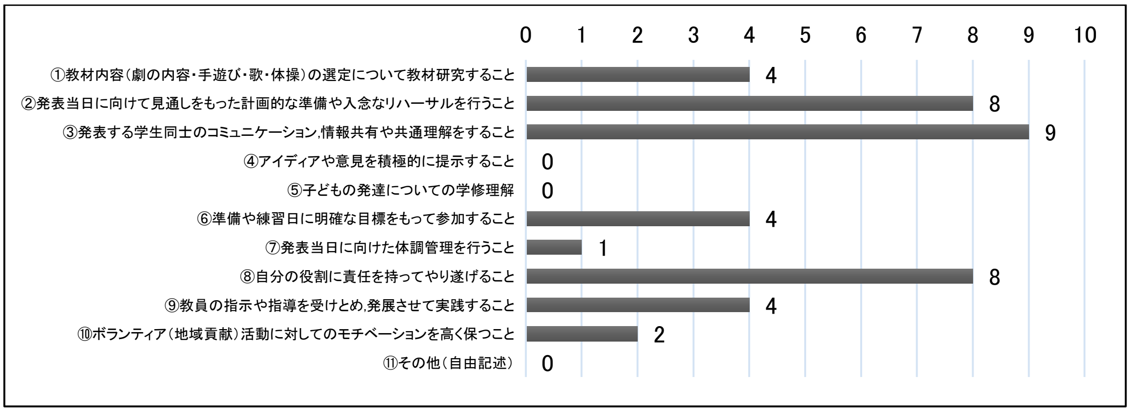

図5　Q1.表現発表の事前準備・練習について，特に積極的に取り組んだことは何ですか．
（複数回答可）

が選択している．次いで，②計画的な準備・リハーサルを行うことや，⑧自分の役割に責任をもってやり遂げることについては，8名（53.3%）が選択をするという結果であった．

（2）「Q2：Q1についてそのように取り組んだ理由は何ですか．具体的に記述してください.」（自由記述）について

表7は，回答結果を示したものである．それぞれの学生が「しっかりと役割を責任持って」と自分の役割に責任を持って，「自分の役のところは場面ごとに練習して」と見通しをもった準備をしたうえで，「情報共有して」学生同士でコミュニケーションを取り，「全員が共通の意識をもって、同じ目標をもって」と共通の目的意識を持つことで「納得・理解したうえで進める」こと，互いに思いや意見をすり合わせ，歩み寄りながらも「仲間とともに協働して取り組む」ことで．発表を成功させるという一つの目標に向かっていったことが伺える．

表7　Q2. Q1についてそのように取り組んだ理由は何ですか．具体的に記述してください．

- 2歳児リトミックの司会のため、何度もイメトレをしてリハーサルを行った。子どもたちに表現をする楽しさ、音楽に合わせて体を動かしたり、楽器を演奏したりする楽しさ、面白さを知ってほしいと考え、楽しい雰囲気を作ることを心がけた。
- 自分の役割に責任をもって取り組むことについて、音楽ゼミからの意見で始まった外部公演のため、発案者としての自覚をもって、だらけることなくしっかりと役割を責任持って行わないといけないと思ったため。
- 準備に明確な目標をもって参加することについて、小道具や衣装を練習日までに間に合うよう準備しました。背景担当になってからは役割に責任をもって、下描きの線を見ながら塗りました。一人ですることは難しいので、協力してすることで終えることができました。
- 以前劇をするにあたって自分の役割をしっかり出来なかったから。
- 本番になるべくリハーサルどおりに終えたいと考えたから。
- どうすれば子どもたちが楽しく劇を見てくれるのかを考えながら劇が始まる前に盛り上げるようなセリフを意識して取り組んだ。
- 自分の中で「やってやるぞ」と思ったこと。
- 自分の役割のところで劇を崩してしまったら嫌なので、自分の役のところは場面ごとに練習をした。
- 発表する学生同士のコミュニケーションや共通理解について、今回の発表の振り返りでもあったように、集団でなにかに取り組むにあたって、気持ちの理解やすれ違いが起こると思ったためです。みんなが納得・理解したうえで進めることが効率よく進み、たくさんの意見が出やすくなると考えました。
- 数少ない集まりで、自分が担当していない役を見て、良かったところ、修正すべきところを情報共有して、より子どもの視点で楽しめる、寄り添った演出ができるようにするため、特に意識して取り組んだ。
- 学生同士のコミュニケーションについて、自分たちがどのようなものを目指しているかを共通してもっていないと全体での動きにばらつきが出すぎてしまうと思ったから。
- 学生同士のコミュニケーションについて、特に意識して取り組みました。なぜならチームで行っていることであるし、全員が共通の意識をもって、同じ目標をもって行うことが大事だと思ったから。
- 練習や劇で使用する教材の作成など、学生同士で積極的にコミュニケーションをとりながらより良い作品や教材を作成し、見ていただいている子どもたちや先生方の心に届く作品にしたいと思いました。
- 衣装作成の期限を守って取り組みつつ、仲間とともに協働して取り組むことが出来た。
- みんなのサポートができるように周りをしっかりみて行動できた。本番前で緊張している子に声をかけ、本番に挑めるようにサポートできた。

（3）「Q3．表現発表当日について，積極的に取り組んだこと・できたことは何ですか．特に当てはまるものについてチェックを入れてください.」（複数回答可）について

図6は，回答結果を示したものである．最も回答が多かった項目としては，①教材内容及び②学生同士のコミュニケーションであり，それぞれ8名（53.3%）の学生が選択する結果となった．

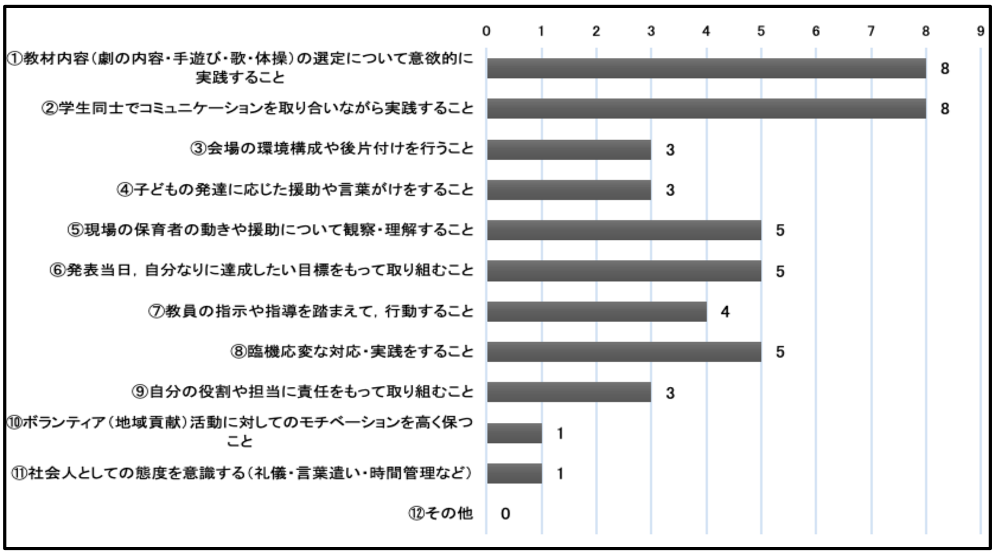

図6　Q3. 表現発表当日について，積極的に取り組んだこと・できたことは何ですか.（複数回答可）

表8　Q4. Q3の質問で選択した項目について，積極的に取り組んだ理由について，具体的に記入してください.

- 子どもたちから元気もりもりパワーをもらって、自分自身も楽しめた。
- 子どもたちの反応を見ながら自分のすべきことを考えながら取り組んだ。
- 自分の役割についてしっかり考えることができた。
- 使わせていただく場所だから。
- 練習した環境ともちろん違うので、臨機応変に対応をできるようにした。
- 自分の役割や担当について責任をもってやりとげることについて、子どもたちが思い描く物語やイメージを大切にしたいと思ったからです。今回主役をやらせていただき、主人公としての責任を大切にし、子どもたちがイメージしやすいように演じました。
- 臨機応変な対応・実践することについて、保育現場についた際、最も自分の中で必要なスキルなのではないかと考えており、今回の貴重な経験で、自分の中で臨機応変に動くことを目標としていたから。
- 発表当日に亀役をすることになったけど、その役なりに笑顔で取り組み行動できた。
- 前日の練習で言われたことを活かせられるよう、擬音を足してセリフを言った。
- 選択した項目に取り組むことで、自分自身がその時間を楽しみ、良い経験の一つになると考えたから。
- 自分の役で緊張せずにできたこと。
- 自分なりの目標をもって取り組むことについて、特にずっと笑顔でいようと言う目標をもって取り組んだ。
- 実習でも保育者が笑顔であれば、子どもも自然と笑顔になると思っていたので、常に意識していました。
- リトミックの際、全体を観察して、子どもや保育者との関わりや動きに注目しながら行った。
- 臨機応変な対応をすることについて、本番では予想外のことが絶対起きると考えていたため、すぐ臨機応変に対応できるように意識し、積極的に取り組んだ。
- 劇では、自分が担当している役割に責任をもってやり遂げることを特に意識して行いました。一人一人、それぞれの役割をしっかりと全うすることで，みんなの力が合わさって素晴らしい劇になったと思いました。

(4)「Q4. Q3の質問で選択した項目について，積極的に取り組んだ理由について，具体的に記入してください.」について

表8は，自由記述の回答結果を示したものである．発表当日の学生の取り組みについては，「物語やイメージを大切に」し，「子どもたちがイメージしやすい」ように表現するなど，教材内容について十分な理解を踏まえた上で実践している姿が見られた．

また，「予想外のことが起きると考えていたため」，「臨機応変に対応できるように」することについて言及しており，保育現場で子どもたちの姿に即応したり，応答的な関わりをもとうとしたりする，保育者としての思考を持って取り組んでいる様子が伺える．

(5)「Q5．表現発表を終えて，準備から当日の実践までを自分なりに振り返り，難しかったことやできなかったことは何ですか．具体的に記入してください．」について

表9は回答結果を示したものである．学生にとって今回の表現発表の準備から当日の実践までを振り返って，困難さや目標が未達成であるという実感があったのは，子どもの「反応をみながら進めていく」ことの難しさや，「リアクションしてくれて」いたことで自分の声が届かなかったなど，大勢の子どもたちの前で保育を進めていくことへの難しさを実感している内容が挙げられていた．

また「準備をなかなか手伝うことができなかった」や「準備などみんな任せにしていた」，「準備期間には自分自身の気持ちの切り替えが難しかった」など，表現発表に向けたモチベーションの維持に課題を感じている様子が伺えた．

表9　Q5．表現発表を終えて，準備から当日の実践までを自分なりに振り返り，難しかったことやできなかったことは何ですか．

- 子どもたちと関わることが少し少なかったなと感じた。
- 子どもたちの反応を見ながら進めていくのが難しかった。
- 事前準備をなかなか手伝うことができなかった。
- 劇の準備（衣装作り）など、みんな任せにしてしなかった。
- 練習では自分たちが思う通りに演じましたが、本番では子どもたちが思ったよりリアクションしてくれて、声が届きにくいことがあって、セリフを言うタイミングや音量を調整するのが難しかったです。
- ぎりぎりになるまで歌やダンスがあやふやで、当日歌詞をまちがえてしまったこと。演出の大切な一部だと頭に入れておきながらも、他のことでいっぱいいっぱいになりおろそかになってしまった。
- もっと大きく体を動かして演技しても良かったかなと思います。
- セリフを覚えるのが前日のギリギリになってしまった。どうしても相手を見てしまう場面があり、子どもと目が合うことが少なかったかもしれないと感じている。
- 準備期間には、学校が休み期間ということもあり、自分自身の気持ちの切り替えが難しかったように感じた。当日は、笑顔や関わることを心がけていたが関わり方に変化をつけられなかった。
- 自分の中で、本番の前日は絶対に思っていたのですが、本番になって緊張してしまって演奏がうまくできなかった。
- 木琴の練習時間を思うように取ることが出来なかった。学校にしかない楽器の練習時間確保が難しい。
- どうしても自信のなさが出てしまい、司会の最中に不安になってしまったりどうしようと迷ってしまったりすることがあった。行動に悩んでしまった結果、他の学生に任せてしまう形になってしまったことは大きな反省点である。
- 練習の際に、子どもたちの反応などを予想して練習することが難しく、本番にならないとわからないことが多々あった。
- 難しかったことは、劇のセリフと音楽をあわせるタイミングです。セリフと音楽のタイミングがなかなか合わず、難しいなと感じる時がありましたが、練習を重ねるうちに、セリフと音楽の息がぴったりになっていったと感じました。

(6)「Q6．今回の表現発表は充実して取り組むことができましたか．」について

今回の表現発表を終えて，充実して取り組むことができたかを尋ねると（図7），「かなり充実して取り組めた」と回答した学生は13名（86.7%）であり，学生自身の充実感は非常に高かった．「全く充実して取り組めなかった」と回答した学生1名（6.7%）は，前項目の振り返りの記述で「事前準備をなかなか手伝うことができなかった」と回答していることから，思うように準備に参加できなかったことから充実感を得られなかったものと考えられる．

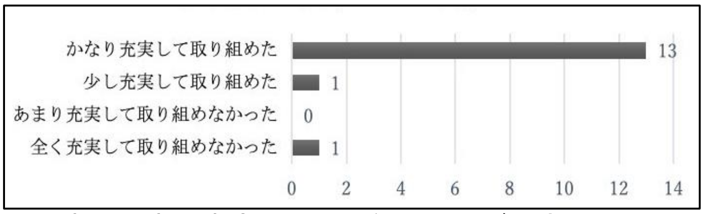

図7　Q6．今回の表現発表は充実して取り組むことができましたか．

(7)「Q7. 今回のような表現発表を継続して次回以降も取り組みたいと思いますか.」について

表現の発表を終えて，今後も継続して取り組みたいと考えるかどうかを尋ねた（図8）ところ，かなりそう思う」,「少しそう思う」の回答者を合わせると15名（100%）となった．学生は表現発表を自分なりに肯定的に捉え，今後も継続して取り組みたいと意欲的に考えている様子が伺えた.

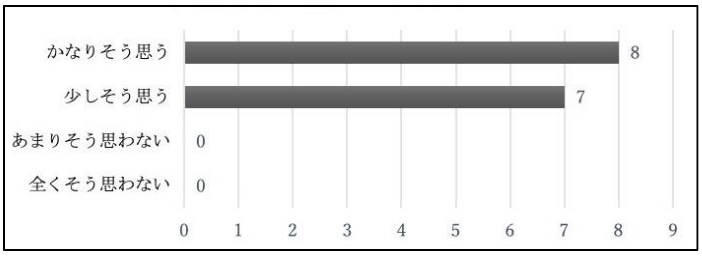

図8　Q7. 今回のような表現発表を継続して次回以降も取り組みたいと思いますか.

(8)「Q8. 実際に保育現場で表現発表を行ったことで，卒業後の進路として，保育所や幼稚園，こども園など保育現場で働きたいと考えられるようになったかについて教えて下さい.」について

今回の表現発表を終えて，「卒業後の進路として，（中略）ど保育現場で働きたいと考えられるようになったか」どうかを尋ねた（図9）ところ，「かなり働きたい」,「少し働きたい」と回答した学生が14名（93.3%）であった．入念に準備を行ったことや，子どもたちの前で最後まで表現発表を実践したことに加え，子どもたちが喜ぶ姿を目の当たりにしたことで，保育者としてのやりがいを感じることができたのではないかと考える.

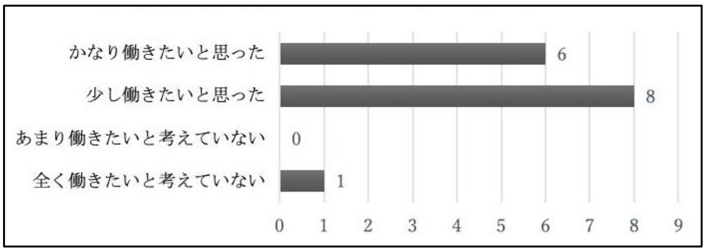

図9　Q8. 実際に保育現場で表現発表を行ったことで，卒業後の進路として，保育所や幼稚園，こども園など保育現保現場で働きたいと考えられるようになったか教えてください.

(9)「Q9. 保育現場とのコラボレーション活動として取り組んでみたい内容があれば自由に記入してください.」について

現場の保育者とのコラボレーション内容について学生自身の考えを尋ねたところ，表10に示した記述が見られた．「赤ずきんちゃん」など別の脚本による劇も取り上げながら,「今回のような劇」と今回と同じ内容の活動を希望する学生が6名いたため，今回の発表が充実したものであったことが伺える．また,「コラボ活動はそれぞれのゼミの強みを活かしあいながら表現活動ができるので、また同じようなことができれば」と異なるフィールドゼミナールを合同させての表現活動に意欲的な記述が見られた.

表10　Q9. 保育現場とのコラボレーション活動として取り組んでみたい内容があれば自由に記入してください.

- 赤ずきんちゃん
- 今回のようなオペレッタ劇
- 今回みたいな劇
- 今回のような劇をもう一度。もしくは音楽コンサート。
- 今回のように子どもと一緒に音楽の楽しさ（歌・演奏を含む）を伝えられるような活動をしていきたいと感じた。
- 様々な楽器が登場する音楽劇など
- コラボ活動はそれぞれのゼミの強みを活かしあいながら表現活動ができるので、また同じようなことができれば楽しいと思う。
- ないです。
- 特になし（3 名）

6. 保育者の評価

次に，保育者に対して行ったアンケート内容と結果を示す．

6-1保育者アンケート調査対象及び調査期間

保育者からの評価アンケートは，表現発表実践当日に配置のあった，いちぶちどり保育園の職員20名を対象とした．調査方法はGoogleフォームへの入力またはアンケート用紙での筆記による回収とした．学生アンケートと同様に，回答は任意であり，回答を拒否することや回答後に撤回することも可能であることを説明するとともに，回答内容によって回答者に不利益を被ることはないこと，個人情報は収集しないこと，また，研究成果を本稿で発表することをアンケート用紙とGoogle Forms上に記載した上，口頭で説明し，同意を得て実施した．調査期間は，2024年8月30日～9月13日の2週間であった．対象20名のうち，18名が回答し（回収率90.0%），有効回答率が100%（18名）であった．

6-2 保育者アンケートの項目と回答

保育者を対象としたアンケートの質問項目としては，2歳児向け及び3～5歳児向けに行った公演での園児の様子について（Q1～Q2），公演を行った学生についての評価（Q3～Q5），公演の実践を行うことで期待される効果（Q6～Q7）及び保育学生に求めるもの・その他（Q8～Q9）について尋ねた．以下に各質問項目と結果を示す．

（1）「Q1．2歳児向けの手遊び・リトミック（・楽器の触れ合い）について，体験中や体験後の園児の様子について，ご記入ください．」（自由記述）について

表11に，2歳児向けの表現発表の園児の様子の回答結果を示した．「緊張」する様子もあったようだが，「知っている曲には体でリズムをとったり」，「歌を口ずさんだり」して楽しんでいたことがいたことがわかった．体験した後も，「『タンタンした』と思い出」したり，「楽器を持ち遊ぶ機会が増え」たり，と日々の保育にも変化があったことが伺える．また，そのような園児を目の前にすることで，保育者にも「保育活動に積極的に取り入れていきたい」といった良い影響があったことが読み取れる．学生の人数について，「もう少し少人数でして」も良かったと感じた保育者もいたため，今後の検討材料としたい．特に，園児と学生の初対面の際には，人数を減らすことで園児の緊張を軽減させる効果も考えられる．

表11　Q1. 2歳児向けの手遊び・リトミック（・楽器の触れ合い）について，体験中や体験後の園児の様子について，ご記入ください．

- 子どもたちが、とても楽しそうにしていて、保育教諭自身も楽しくて良かったです。
- 表情が和やかになっていた。
- どの園児もとても興味をもって参加していたと思います。
- 初めてのことで、子ども達に緊張が見られましたが、知っている曲には体でリズムをとる姿が見られました。 ありがとうございます。
- 場所見知りもありましたが楽しんでいました。
- 一緒に手を叩いたり、楽器を鳴らしたり、歌を口ずさんだりして楽しむ子ども達の姿が見られた。
- じーっと真剣に学生さんたちの姿を見たり、楽器で音を鳴らしてみたりと楽しそうにしていました。
- 視覚的なスケッチブックのイラストがあることで、様々な子どもたちが興味をもって参加していた。
- イレギュラーな参加となった、0、1歳児がとても集中して、音やリズムを楽しんでいた。 0歳児でもリトミカを持ちたがり、自分で振って楽しむ姿が見られ、乳児さんみんなが楽しめ心地よいひとときでした。
- 急遽1歳児クラスも参加させていただきありがとうございました。対象年齢より月齢の低い子ども達ですが、体験中は知っている動物が出てくると指差しをして興味を示していました。また楽器を手にすることで一緒に参加できたことを喜び、体験後も「タンタンした」と思い出す姿が見られました。
- とても楽しんでいる様子で活動に参加し、終わってからも楽しかった、またしたいと言っていた。
- 音楽をわかりやすく楽しめたのがよかった。後日、楽器を持ち遊ぶ機会が増えた。
- 子ども達が、楽器に触れ、音を楽しむ姿が見られた。0歳児や1歳児も一緒に楽しめることができとても良かった。保育活動に積極的に取り入れていきたい。
- かなり学生さんの数が多く圧倒されている様子だった。せまい部屋だったので、もう少し少人数でしていただいてもよかったかもしれないです。

（2）「Q2．3～5歳児向けの音楽劇・体操について，体験中や体験後の園児の様子について，ご記入ください．」（自由記述）について

表12に，3～5歳児向けの表現発表を行った際の園児の様子について回答結果を示した．「子どもたちが普段遊んでいる手遊びを取り入れ」た手遊びや歌などの内容だったことで，子どもたちが自然と発表に没入していくことができたことがわかった．保育園と事前の打ち合わせをする中で子どもたちの慣れ親しんでいる歌などを把握していたことが結果に結びついたと考えられる．

さらに，学生が演じたり演奏した内容に興味や関心が高まり，「覚えている限りを保育者や友達に話したり共有」たりする姿が見られ，保育園が今後予定している生活発表会へのイメージや見通しをもたせることへの効果があったと考えられる．

表12　Q2.3～5歳児向けの音楽劇・体操の体験中や体験後の園児の様子

・子ども達が、お話の中に引き込まれ楽しむ様子がみられました。体操は、あらかじめ何度か親しんでおけば良かったと思いました。　音楽劇は、発表会でとても参考になることが沢山ありました。
とても興味深くみていたと思います。
・前日から楽しみにしており、当日も夢中になってみる姿が見られた。
・先日はありがとうございました。馴染みのある歌を披露していただいたので、子どもたちもノリノリで楽しむ姿がみられました。楽器の演奏では、今後の発表会に向けて期待をもつ良いきっかけになりました。
・体験中は「次に何が始まるだろう」と目を輝かせて見ている子ども達の姿が見られました。体験後には、出てきた生き物の名前や、踊りや歌など覚えている限りを、保育者に話したり、友達同士で共有し合う姿が見られました。(3歳児)
・村田先生の物語への導入も素晴らしく、勉強になった。手遊びは興味深く私も覚えたいと思った。音楽劇、体操は学生さん方がとにかく楽しそうに演じていて、観ている側も自然とストーリーに引き込まれていった。オープニングの浦島太郎のインパクトが大きく、そこで子ども達の心を掴んだ！と感じた。
・ピアノの後ろに釣竿を投げて〜というシーンは、こんな見せ方があったのか！！と 自園の部屋の特性に気付かされた。子ども達が普段遊んでいる手遊びを取り入れてくれたことで、興味を持ち口ずさんで参加する姿があった。
・「おちゃらかほい」の演じる側の見せ方として、真ん中に集まり過ぎていたので、 もう少し間隔をあけて演じてもよかったかなと思ったが演じる側が本当に楽しそうに演技していたので良いです！
・最後の体操も子どもたちを取り囲むスタイルが より一体感を感じることができて良かった。
・体験後、子ども達も「楽しかったなー」「また来てほしい」「面白かったー」と楽しいひとときを満喫した様子でした。
・参加していません。
・見ていない。

（3）「Q3．表現発表当日について，学生が積極的にできたこと・取り組んだと思われることについてチェックを入れてください．（複数回答可）」について

図10は回答結果を示している．保育者の回答結果として，①教材内容についての回答が最も多く，17名（94.4%）の回答が見られた．また，⑨自分の役割や担当について責任をもってやり遂げることについては14名（77.8%）であり，②学生同士でのコミュニケーションを取り合いながら実践すること，⑩ボランティア活動に対してのモチベーションを高く保つことについては，ともに13名（72.2%）という結果であった．⑫その他（自由記述）の回答については，「明るく笑顔であること！団結力」や，「一生懸命に取り組んでいる姿がみられた」といった記述が見られ，学生が協力し合いながら真剣に発表に取り組んでいた姿を実感していることがわかった．

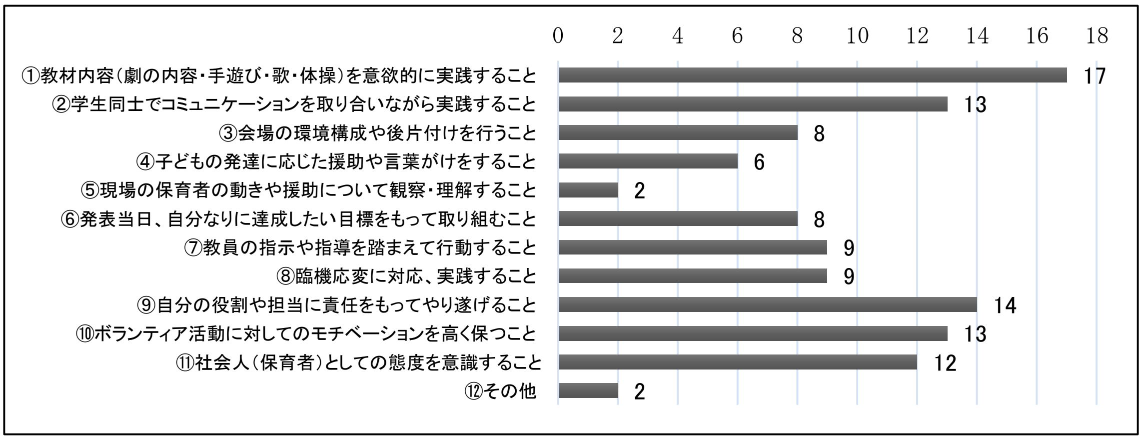

図10　Q3. 表現発表当日について，学生が積極的にできたこと・ 取り組んだと思われることについてチェックを入れてください．（複数回答可）

（4）「Q4．保育者の視点から，良かったと思われる点をご記入ください．」（自由記述）について

表13は自由記述の結果を示している．学生が「全員が笑顔で参加」し，「前向きで積極的な姿」で「楽しんで」発表をしていたことが良かったと捉えられていることがわかった．また，「わかりやすく，ピアノに合わせて楽しむこと」や，子どもたちが「普段から遊んでいる事」，「興味に寄り添った内容」を取り入れたことで園児が楽しむ結果につながったと感じていることが読み取れる．

表13　Q4．保育者の視点から，良かったと思われる点をご記入ください．

・学生さんの皆様も楽しそうにされていて気持ち良かったです。
・全員が笑顔で参加していた。
・うたあそびのも表現遊びも子どもが楽しんで行っていたので良かった。
・学生さん自身が楽しんで演じていたこと！
・前向きで積極的な姿に感心しました。
・みんなの気持ちがひとつになっていた！
・先生との信頼関係が見られた。
・片付けの連携、手早さが素晴らしかった！
・様々な点で工夫が見られ、私達自身もとても刺激を受けました。表現力もとても豊かで、素敵でした。
・わかりやすく、ピアノに合わせて楽しむことができたので良かった。
・動物になりきるのは、普段から遊んでいる事なので取り組みやすかったと思います。
・生徒さん自身が楽しんで行えていたことがとてもよかったと思いました。
・まず皆さんの笑顔がよかったです。
・子どもの興味に寄り添った内容で良かった。
・皆さん笑顔が素敵で、緊張されてる中でも子ども達への優しい声かけや表情が安心でき、見ているこちらも楽しい気持ちになりました。
・学生さんの連携や、熱意が伝わる内容でした。
・前だけに立つのではなく、横にも立って子ども達を包み込む形で場を盛り上げてくれていたので、子ども達も楽しむことができたと思う。
・楽器を渡す時に、子どもの目線に合わせて，丁寧に渡していたところ。

（5）「Q5．保育者の視点から，改善すると良いと思われた点をご記入ください．」（自由記述）について

表14は保育者の視点で，発表の改善点についての自由記述を示している．「声の大きさやトーン」が子どもたちに届きにくかったことを指摘されている記述が多く見られた．また，「手足全部，身体全身で表現する」ことや，「大きな声やジェスチャーで」表現することを改善点として記述されており，子どもたち全体に対して理解できる言葉や動作を伴った表現方法が重要だと考えていることがわかった．2歳児向けの

手遊びについては，「曲調が暗い」印象を受けており，これは，選択した曲にマイナーコードが多用されていたためと考えられる．学生と園児が出会って最初に演奏する曲であったため，「和やかにスタート」するためにも，選曲については今後の改善点としたい．

表14　Q5．保育者の視点から，改善すると良いと思われた点をご記入ください．

・声の大きさが、もう少しあると良い。
・改善ではなく、心がけるとよいこととして！ 子ども達には、ゆっくり話す。言葉だけでなく、手足全部、身体全身で表現する。表情も豊かに！
・本当に特にありません。みなさんの笑顔、やる気とても素晴らしかった！
・子どもへの言葉がけの声の大きさやトーンなど工夫があればよかったです。楽器紹介や、さまざまな楽器の音色を聞かせてもらったり、演奏を聞かせてほしかったです。
・声が小さい学生さんもいたので聞きづらい所もあった。
・始まりの手遊び？が(パンの曲)明るい曲、優しい曲に聞こえなくて、曲調が暗い感じだったので何が始まったんだろうとびっくりしているように感じました。初めはもっと乳児向けの曲や誰でも知っている歌にしてもらえると、和やかにスタートできたかな？と思います。
・子ども達の声もあるので、もう少し大きな声やジェスチャーで伝えていただけるともっと良かったと思います。
・特にありません。
・楽器の音で声が聞こえない場面があったので、声に強弱をつけたり身振りや手振りをつけて伝え方を工夫すると、より次の活動や楽しかった時間を振り返る余韻ができると思います。
・物語の中で子ども達の反応があった際、セリフと被ってしまう場面があった。
・普段見たこと聞いたことのない楽器などの音やリズムを聞いたりする機会があってもよかったかなと思いました。
・特にないです。

(6)「Q6．この表現発表の実践を通して，子どもたちにどのようなメリットがあると考えられますか．（複数回答可）」について

表現発表実践が園児にもたらすメリットについて尋ねた（図11）．その結果，①「うたやリズムに親しみ，さまざまな音楽表現の楽しさを体験することができる」と考えた保育者が最も多く，17名（94.4%）であった．また，④「身近な大人（学生）と親しみをもって関わることができる」という項目についても15名（83.3%）が選択していた．自由記述については「楽器の奏で方，音色を知ることができた」という記述がみられた．子どもたちと日々接している保育者ではなく，外部公演で訪れた学生との発表を通した交流が，子どもたちにとって様々な人との関わりを広げる機会となっていると捉えた保育者や，保育の中で触れる機会の少ない楽器表現について体験できたことが，子どもたちにとってのメリットであったと考えている保育者が多くみられた．

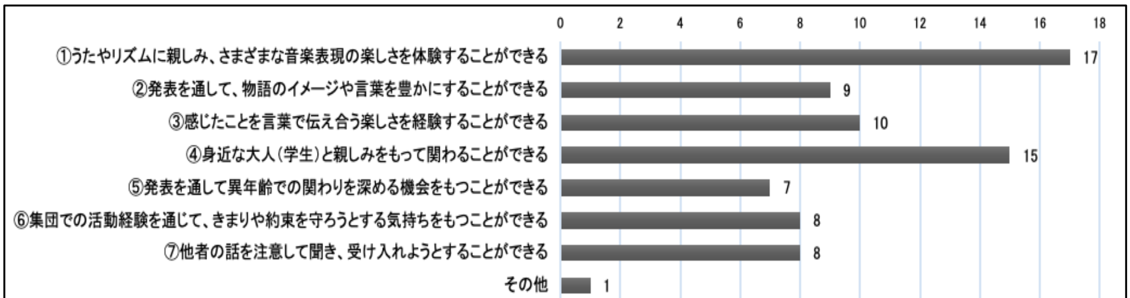

図11　Q6．この表現発表の実践を通して，子どもたちにどのようなメリットがあると考えられますか．（複数回答可）

（7）「Q7．この表現発表の実践を通して，園（保育者）にどのようなメリットがあったと考えられますか．」（自由記述）

表現発表の実践が保育者にもたらすメリットについて尋ねた（表15）．その結果，「音楽とふれあういろいろな方法を知れ」たり，「楽器の鳴らし方を知ることができた」りすることで，「今後楽器を使った活動を取り入れ」ることへの働きや，園児が「生活発表会への合奏や劇に興味関心を持ち，期待を持って取り組める」ことへの働きになっていたことがわかる回答が見られた．また，普段の保育でも「室内遊びのバリエーションが増え」たり，園児の「興味・関心をもっていることを改めて感じ」たりすることで，今後への保育活動の拡がりに繋がる回答もあった．また，「普段と違う人と関わ」ること自体が園児に刺激になったと考える保育者も見られた．

表15　Q7．この表現発表の実践を通して，園（保育者）にどのようなメリットがあったと考えられますか．

- 音楽とふれあう色々な方法を知れ良かったです。
- 楽器を触れる機会や、楽器の鳴らし方を知ることができた。
- 乳児は様々な楽器に触れ合う時間が少なかったので、楽器に触れることで楽器に興味をもつことができていたのでまた今後楽器を使った活動を取り入れようと思えるようになった。
- 生活発表会に向けて期待をもつ良いきっかけとなった。
- 2月に生活発表会があることで、前提での話が子ども達に伝えやすいこと。身近な楽器の他にバイオリンなどあまり見ることのない楽器にも触れられること。
- 表現する楽しさを子ども達に感じてもらえた。子ども達（幼児クラス）は2月の生活発表会への、合奏や劇に興味関心をもち、期待を持って取り組める。 普段の遊びにも楽器が身近になった。
- 音を楽しむことや音楽劇を観ることで、保育者が色んな視点に気づくことができる。 また、保育の振り返りにも繋がると感じた。
- 子どもだけでなく、職員である私たちも参考になり、もっと頑張らねば､､､と大変刺激を受けました。
- 楽しい一時を過ごせました。
- 子ども自身が表現をする楽しさを感じている姿を見ることができた。
- 今年は暑く、戸外や水遊びにも制限があり、室内遊びのバリエーションが増え、みんなが楽しめた内容で、運動遊びや劇表現遊びにつながるので、よかったです。
- 子ども達の興味・関心をもっていることを改めて感じることができたし、鈴なら簡単に鳴らせると学ぶことができた。
- 子どもたちはお兄ちゃん、お姉ちゃんが大好きなので普段と違う人と関われるのは嬉しい事だと思います。
- 普段関わることが少ない、学生さん達と関わることが出来て、刺激になったこと。

（8）「Q8．将来，保育者を目指す学生に求めたいことは何ですか．（複数回答可）」について

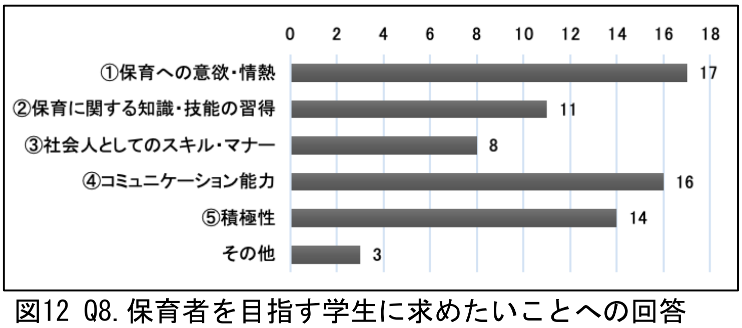

図12 Q8.保育者を目指す学生に求めたいことへの回答（複数回答可）

保育者を目指す学生に求めることを尋ねた（図12）．その結果，①「保育への意欲・情熱」であると考えた保育者が最も多く，17名（94.4%）であった．また，④「コミュニケーション能力」については16名（88.9%），積極性についても14名（77.8%）が選択した．自由記述については「探究心」，「臨機応変・対応力」，「経験；子どもたちと少しでも多く接する機会を！」という記述が見られた．他者との積極的な関わりや主体的・能動的に行動することを求めている保育者が多く見られ，「臨機応変・対応力」，「経験；子どもたちと少しでも多く接する機会を！」などそ

の場に応じた対応も求めていることもわかった.

(9) 「Q9. 学生に園で実施してほしい内容がありましたら，ご自由にご記入ください．」（自由記述）について

学生が園で実施する際の希望について尋ねた（表16）．「同じような内容で」と今回と同様の内容への希望や，「絵本の会」など絵本を使用した取り組みへの希望もあった．また，園児が「即興で参加できる劇」への希望や，学生と園児が「一緒に活動して楽しめる」活動への希望もあり，人とのつながりやコミュニケーションを大切にしたい保育者の思いが読み取れる．

表16　Q9.学生に園で実施してほしいことについて

・また同じような内容で実施していただきたい。
・今回の様な、楽器も取り入れた表現遊びが良いです。普段の子ども達が楽しんでいる手遊びも盛り込まれたもので、本当に素敵な一日でした。 お忙しい中、先生方はじめ学生の方々の練習の成果だと感謝申し上げます。 ありがとうございました！！！！！
・今回のような音楽フェスティバルを発表会がある少し前にしていただけたら子どもたちもイメージがわいて良いなと思いました。絵本も大好きなので絵本の会などもあるとすごく喜ぶと思います！ ありがとうございました！
・2歳児が見ることができる劇や 子どもたちも、即興で参加できる劇。
・子ども達の馴染みのある曲を演奏して頂き、体で表現したり、うたったりしたいです。
・一緒に遊べる取り組み。どうぞ、よろしくお願いします。ご準備等、大変だったと思います。 素晴らしい時間をありがとうございました！
・一緒に歌を歌う、楽器を演奏する等々一緒に活動して楽しめることができればとても素敵だなぁと感じます。
・またぜひ、来ていただきたいです。とても楽しい時間でした。ありがとうございました。
・特にないです。

7. 考察

学生へのアンケート結果より，図5に示した事前準備・練習についての回答結果と，図6に示した表現発表当日に積極的に取り組んだことについての回答結果とを比較すると，「自分の役割や担当に責任を持って取り組む」と回答した学生は，事前準備時の15名中8名（53.3%）から発表当日の3名（20.0%）へと少なくなったが，「教材内容について意欲的に取り組む」と回答した学生は事前準備時の4名（26.7%）から発表当日の8名（53.3%）へと増加し，「学生同士のコミュニケーションを取り合って実践する」と回答した学生は事前準備時9名（60.0%），発表当日8名（53.3%）と，ともに多かった．このことから，事前準備の段階では，自分の役割や責任に意識が向かっていたが，発表当日は，発表に集中して取り組みながら，自分の役割だけでなく，コミュニケーションを取ることで発表成功という一つの目標に向かっていったであろうことが考えられる．このことは，表7事前準備の「しっかりと役割を責任持って」と自分の役割に責任を持って，「自分の役のところは場面ごとに練習して」と見通しをもった準備をした記述や，表8事後「物語やイメージを大切に」し，「子どもたちがイメージしやすい」ように表現するなど，教材内容について十分な理解を踏まえた上で実践している学生の記述からも伺える．

また，保育者へのアンケート結果より，図5に示した事前準備・練習についてのアンケ結果と図6に示した「表現発表当日の積極的にできたこと・取り組んだと思われること」についての回答結果と，図12に示した「保育者を目指す学生に求めたいことは何ですか」の回答結果とを照らし合わせると，図10で「教材内容を意欲的に実践すること」を選択した保育者が17名（94.4%）であり，図12で「保育への意欲・情熱」を選択した保育者が17名（94.4%）であること，また，図10で「学生同士でコミュニケーションを取り合いながら実践すること」を選択した保育者が13名（72.2%）であり，図12で「コミュニケーション能力」を選択した保育者が16名（88.9%）であることから，学生が意欲的に実践し，コミュニケーションを取り合っていることを評価している保育者が多かったことから，学生

の行動が，現場の保育者が保育者を目指す学生に求めること,「保育者が学生に求める保育者像」に沿ったものであったと考えられる．ただし，図10「表現発表当日について，学生が当日の積極的にできたこと・取り組んだと思われること」で，「臨機応変に対応・実践すること」については18名中9名（50.0%）の評価であったこと，また，学生に対する事後アンケート表9からも「子どもたちの反応を見ながら進めていくのが難しかった」と感じた学生や，発表中に「どうしようと迷ってしまったりすることがあった」学生もいたことから，今後に向けた課題であると考えられる．この課題を解決するためには，保育者の「保育者を目指す学生に求めたいこと」（図12）への回答にもあったように，「子どもたちと少しでも多く接する機会」をもつ「経験」を積み重ねることが大切である．同じく，保育者が 保育者を目指す学生に求めたいこと」（図12）として挙げられた，「保育への意欲・情熱」17名（94.4%），「コミュニケーション能力」16名（88.9%），積極性14名（77.8%）が示すとおり，保育についての知識や技術を持つことが最重要ではなく，保育への意欲や情熱，また，コミュニケーション能力や積極性を持つことが求められている．こうした能力は「現場実践力」にもつながり，仲間との協力が必要な行事や，実際に子どもたちと接する経験を経ることで高められる．そのため，今回のような学外での活動で，実際に子どもに関わることができる機会を得られたことは，大変有意義であったと考える．

今回の実践では，保育者養成校と保育現場が育てたい子どもの姿を共通理解し.協議して一つの行事を実現させていくプロセスを，学生たちは体験的に学習することができた．学生たちはこの実践を通して，表6のとおり「自身の達成したい目標」を設定し, 事前（図5,表7）・事後（図6，表8）アンケートにより振り返りを行うことで，自身の学びを深めている．また，図8アンケート結果が示すとおり，「今回のような表現発表を継続して次回以降も取り組みたいと思いますか」について，「かなり思う」,「少しそう思う」と15名（100%）の学生が回答し，自らが主体的に学ぶ姿が見て取れる．さらに，図9「実際に保育現場で表現発表を行ったことで，卒業後の進路として，保育所や幼稚園，こども園など保育現場で働きたいと考えられるようになったか」について,「かなり働きたい」,「少し働きたい」と14名（94.4%）の学生が回答していることから，この保育実践が保育者として働くうえでのやりがいや充実感が感じられるようになったと考えられる.

保育者養成校では，学生は履修するカリキュラムの中で保育所や幼稚園，こども園の現場に「実習」という形で実際の子どもと関わり，発達段階や特性を体験的に理解し把握していく，また指導案を立案し，自分自身で保育を組み立てていくことが実習での大きな学びとなっている.

その一方で，筆者らはこれまでの指導の中で，実習への見通しのもちにくさや責任感から，実習に対しての不安感や負担感を抱く学生の姿を散見している．即時性・即応性が求められる保育現場において，子どもたちの姿に応えられるよう自らの専門性を高めるためには，仲間同士で支え合いながら保育に取り組むことが欠かせない．今回, この実践をとして，保育に必要な協働する力を培う経験ができたと考えられる.

謝辞

本稿で取り上げた2歳児及び3～5歳児の運動遊び，表現発表の実践にあたって，以下の方々の支援をいただいた.

いちぶちどり保育園長を初めとする職員の皆様，及び園児，また園児の保護者の皆様，ここに記して感謝申し上げます.

注釈

注1）幼稚園教育要領には,「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域があり, その一つである感性と表現に関する領域「表現」の観点は，「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して，豊かな感性や表現する力を養い，創造性を豊かにする」[1] とされる.

注2）プラスチックとスポンジで作られており，片方の手に乗せてもう片方の手で叩くことで，中に入ったビーズの音が鳴る打楽器のことである．
注3）写真における肖像権や個人情報保護については，関係者に掲載許諾を得ている．

参考文献

1）文部科学省：『幼稚園教育要領解説』，p.233，フレーベル館（2018）
2）阿部真子：「ゼミ活動としてのオペレッタ公演の実践：表現活動を通して得られる学生自身の学びに焦点を当てて」，『関西福祉大学紀要』，pp.97-105，26（2023）
3）神原雅之：『楽しみながらからだを動かす1～5歳のかんたんリトミック』，ナツメ社（2020）
4）城野賢一・城野清子：『ピーター・パンのぼうけん物語 ： 牛乳しぼりのペレット姫・かもとりごんべいさん（こどものミュージカル：学芸会・おゆうぎ会用）』，ドレミ楽譜出版社（1995）
5）城野賢一・城野清子：『アラジンとまほうのランプ ； てぶくろ ； しらゆきひめ（学芸会・おゆうぎ会用舞踏劇名作集）』，全音楽譜出版社（1983）
6）新谷龍太朗：「保育職志望学生におけるボランティア体験の意義」，『保育研究』，pp.34-43，47（2017）
7）冨田久枝：『保育園・幼稚園はじめてのクラス担任マニュアル』，成美堂出版（2020）
8）永野典詞・香崎知郁代：「幼稚園教育実習における学生の学びに関する意識調査」，『心理・教育・福祉研究：紀要論文集』，pp.1-12，21（1）（2021）
9）前田綾子，富岡美織著；萩原凪佳絵：『斎藤公子 さくら・さくらんぼリズム遊び：イラスト版』，Kフリーダム（2022）
10）松山由美子：「保育者養成における『保育実践力』育成のための学びの場：模擬保育と学外実習に関する質問紙調査の結果からの考察」，『四天王寺大学紀要』，pp.197-212，49（2009）
11）ミツル&りょうた著；よつばや本文イラスト：『ミツル&りょうたの歌って踊って遊ブック！』，学陽書房（2007）